BASF
We create chemistry

適用拡大登録のご案内

令和８年１１月

農林水産省登録
第２５００５号

殺虫剤 エフィコン®SL

ジンプロピリダズ液剤

令和８年11月４日付けで、以下のとおり適用拡大登録*されました。

[適用病害虫名の追加]

（1）作物名「いちご」の使用方法「育苗ポット灌注」及び「散布」に適用病害虫名「コナジラミ類」が追加されました。

（2）作物名「茶」に適用病害虫名「チャトゲコナジラミ」が追加されました。

[希釈倍数の追加]

（3）作物名「てんさい」及び「ばれいしょ」の使用方法「散布」に希釈倍数「2000～3000倍」に「4000倍」が追加され「2000～4000倍」に変更されました。

[使用方法（無人航空機による散布）の追加]

（4）作物名「キャベツ」及び「ばれいしょ」に使用方法「無人航空機による散布」が追加されました。

[使用方法（常温煙霧）の追加]

（5）作物名「トマト」、「ミニトマト」、「なす」、「ピーマン」、「いちご」に使用方法「常温煙霧」が追加されました。

[総使用回数の変更]

（6）作物名「キャベツ」の総使用回数が「３回以内（但し、定植時までの灌注処理は１回以内、散布は２回以内）」から「３回以内（定植時までの処理は１回以内、散布及び無人航空機散布は合計２回以内）」に変更されました。

（7）作物名「はくさい」、「ブロッコリー」、「レタス類」、「きゅうり」、「すいか」、「メロン」、「てんさい」の総使用回数が「３回以内（但し、定植時までの灌注処理は１回以内、散布は２回以内）」から「３回以内（定植時までの処理は１回以内、散布は２回以内）」に変更されました。

（8）作物名「トマト」、「ミニトマト」、「なす」、「ピーマン」、「いちご」の総使用回数が「３回以内（但し、定植時までの灌注処理は１回以内、散布は２回以内）」から「３回以内（定植時までの処理は１回以内、散布及び常温煙霧は合計２回以内）」に変更されました。

（9）作物名「ばれいしょ」の総使用回数が「３回以内（但し、植付時の植溝内土壌散布は１回以内、散布は２回以内）」から「３回以内（植付時の植溝内土壌散布は１回以内、散布及び無人航空機散布は合計２回以内）」に変更されました。

＊適用登録内容、及び注意事項の追加及び変更は次ページ以降のとおり

【変更後：**太字下線部（変更する作物のみ抜粋）**】

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジンプロピリダズを含む農薬の総使用回数
キャベツ	―	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	250倍	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱またはﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊(30X60cm、使用土壌約1.5～4L)当り0.5L	定植当日	１回	灌注	**３回以内(定植時までの処理は１回以内、散布及び無人航空機散布は合計２回以内)**
		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1000～2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	２回以内	散布	
		ｱｻﾞﾐｳﾏ類	1000倍					
		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	**16倍**	**0.8～1.6L/10a**			**無人航空機による散布**	
			32倍	**1.6～3.2L/10a**				
はくさい		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	250倍	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱またはﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊(30X60cm、使用土壌約1.5～4L)当り0.5L	定植当日	１回	灌注	**３回以内(定植時までの処理は１回以内、散布は２回以内)**
			1000～4000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	２回以内	散布	
ブロッコリー			250倍	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱またはﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊(30X60cm、使用土壌約1.5～4L)当り0.5L	定植当日	１回	灌注	
			1000～2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	２回以内	散布	
		ｱｻﾞﾐｳﾏ類	1000倍					
レタス類		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	250倍	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱またはﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊(30X60cm、使用土壌約1.5～4L)当り0.5L	定植３日前～定植当日	１回	灌注	
			1000～4000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	２回以内	散布	

【変更後：**太字下線部（変更する作物のみ抜粋）**】

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジンプロピリダズを含む農薬の総使用回数
トマト、ミニトマト	―	アブラムシ類 コナジラミ類	500倍	50mL/株	定植当日	１回	育苗ポット灌注	**３回以内（定植時までの処理は１回以内、散布及び常温煙霧は合計２回以内）**
		アブラムシ類	1000～2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	２回以内	散布	
		コナジラミ類 アザミウマ類 トマトサビダニ	1000倍					
	温室、ガラス室、ビニールハウス等の密閉できる場所	**アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類 トマトサビダニ**	**40倍**	**10L/10a**			**常温煙霧**	
なす	―	アブラムシ類 コナジラミ類	500倍	50mL/株	定植当日	１回	育苗ポット灌注	
		アブラムシ類	1000～2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	２回以内	散布	
		コナジラミ類 アザミウマ類	1000倍					
	温室、ガラス室、ビニールハウス等の密閉できる場所	**アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類**	**40倍**	**10L/10a**			**常温煙霧**	
ピーマン	―	アブラムシ類 コナジラミ類	500倍	50mL/株	定植当日	１回	育苗ポット灌注	
		アブラムシ類	1000～2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	２回以内	散布	
		コナジラミ類	1000倍					
	温室、ガラス室、ビニールハウス等の密閉できる場所	**アブラムシ類 コナジラミ類**	**40倍**	**10L/10a**			**常温煙霧**	
いちご	―	アブラムシ類 **コナジラミ類**	500倍	50mL/株	定植当日	１回	育苗ポット灌注	
		アブラムシ類	1000～2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	２回以内	散布	
		アザミウマ類 **コナジラミ類**	1000倍					
	温室、ガラス室、ビニールハウス等の密閉できる場所	**アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類**	**50倍**	**9L/10a**			**常温煙霧**	

【変更後：**太字下線部（変更する作物のみ抜粋）**】

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジンプロピリダズを含む農薬の総使用回数
きゅうり	—	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	500倍	50mL/株	定植当日	1回	育苗ﾎﾟｯﾄ灌注	**3回以内（定植時までの処理は1回以内、散布は2回以内）**
		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
		ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類	1000倍					
すいか、メロン		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	500倍	50mL/株	定植当日	1回	育苗ﾎﾟｯﾄ灌注	
		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
		ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	1000倍					
てんさい		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	100倍	ﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊当り1L（3L/m^2）	定植当日	1回	灌注	
			2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
ばれいしょ		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	100倍	20L/10a	植付時	1回	植溝内土壌散布	**3回以内（植付時の植溝内土壌散布は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内）**
			2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
			32倍	**0.8～1.6 L/10a**			**無人航空機による散布**	
			64倍	**1.6～3.2 L/10a**				
茶		ﾁｬﾉﾐﾄﾞﾘﾋﾒﾖｺﾊﾞｲ ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ **ﾁｬﾄﾞｹﾞｺﾅｼﾞﾗﾐ**	500～1000倍	200～400 L/10a	摘採14日前まで		散布	2回以内

【使用上の注意事項が追加及び変更されました】

（追加）

・ハウスなどの常温煙霧用として使用する場合は下記の注意事項を守ること。

① 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

② 作業はできるだけ夕刻に行い、作業終了後6時間以上密閉すること。

・本剤を無人航空機で散布する場合は、次の事項に注意すること。

① 散布機種の散布基準に従って実施すること。

② 散布機種に適合した散布装置を使用すること。

③ 散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。

④ 散布薬液の飛散による他の分野への影響に注意して、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。

⑤ 散布終了後は以下の注意事項を守ること。

- 使用後の空容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。
- 散布終了後、機体の装置は十分洗浄すること。また、薬液タンクの洗浄廃液は河川等に流さないこと。

（変更：**太字下線部**）

・過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用すること**（抵抗性発達回避）**。

【使用に際して講ずべき被害防止方法が追加されました】

（追加）

・農薬使用者に係る被害防止方法

① 防護装備

該当なし

② その他の被害防方法

夕刻から常温煙霧し、常温煙霧中はハウスへ入らないこと。また、翌朝の常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気をした後に入室すること。

その他の使用上の注意事項などについては、製品に貼付されているラベルを参照のこと。

さらに詳しい情報を知りたい方へのお知らせ

【フリーダイヤル】0120-014-660　【ホームページ】https://crop-protection.basf.co.jp/

BASFジャパン株式会社

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3-4-4 OVOL日本橋ビル3階 0120-014-660

●情報提供の目的で弊社よりダイレクトメールを発送しております。ご不要の場合はお手数ですがフリーダイヤルまでご一報ください。

®＝BASF社の登録商標